

① 第3子無料化を拡大した3年間の人口の推移

全体人口の減少が4.8%なのに対し、子育て世代である20歳～39歳の女性の人口減少は3倍強の16.0%となっている。それに伴い、年少人口も8%減少。

○人口(4月1日現在)

	H23	H27	H27-H23	増減率
全体人口	89,770	85,458	△ 4,312	-4.8%
20歳～39歳女性人口	9,338	7,841	△ 1,497	-16.0%
年少人口(0～5歳)	3611	3321	△ 290	-8.0%

② 第3子無料化を拡大した3年間の子どもがいる世帯

制度拡大前の平成23年には18.1%だったが、平成26年度では16.7%にまで減少。子ども1人の世帯が最も多く約5割、2人の世帯が約4割、子どもが3人以上の世帯は1割。増減率をみると、子ども1人の世帯の減少率が最も高くなっている。

○全世帯数に占める子ども(18歳未満)のいる世帯の割合

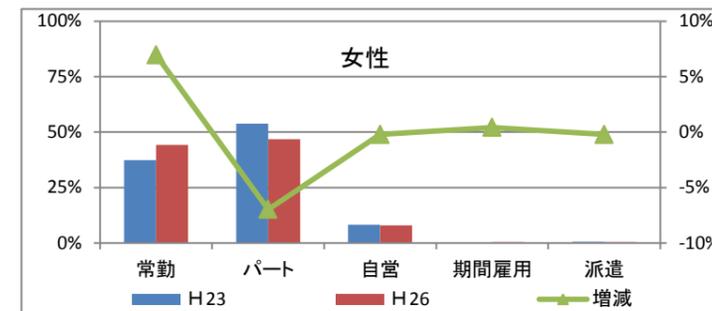
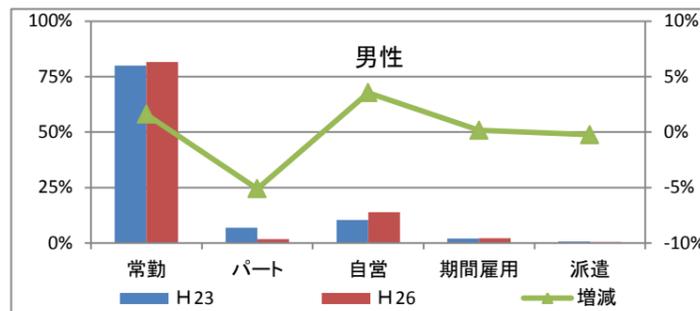
	H23	H26	H26-H23	増減率
4月1日現在世帯数	42,374	42,267	△ 107	-0.3%
子どもがいる世帯数	7,661	7,042	△ 619	-8.1%
子どもがいる世帯の割合	18.1%	16.7%	-1.4%	-7.8%

○子どもの人数別世帯数の状況

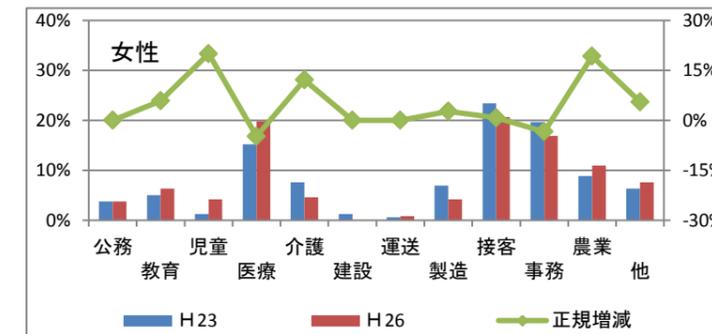
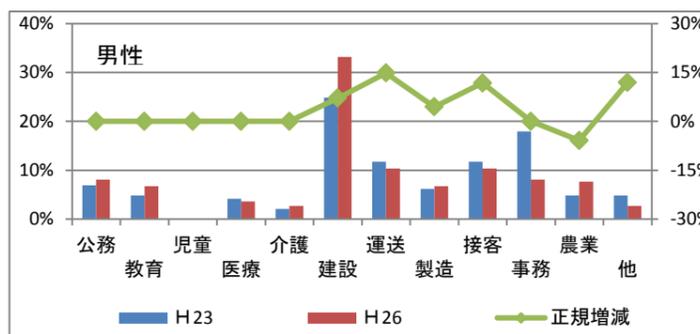
	H23		H26		H26-H23	増減率
	数	構成比	数	構成比		
子ども1人世帯	3,659	47.7%	3,327	47.3%	△ 332	-9.1%
子ども2人世帯	3,076	40.1%	2,825	40.1%	△ 251	-8.2%
子ども3人世帯	809	10.6%	764	10.9%	△ 45	-5.6%
子ども4人世帯	104	1.4%	109	1.5%	5	4.8%
子ども5人以上	13	0.2%	17	0.2%	4	30.8%

④ 無料対象世帯の雇用形態の変化

男性、女性ともに、パートが減り常勤が増えている。特に母親は常勤が7%増え、パートとほぼ同じ割合になっている。



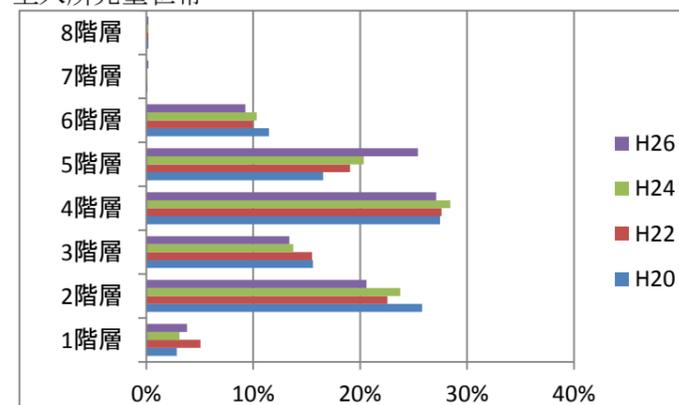
男性は、公務員・教員・建設業・農業が増え、女性は教員・医療職・農業が増えている。これらは比較的収入の高い職種であり、また、全体に正規雇用が増えていることが減免額の増加につながっている。



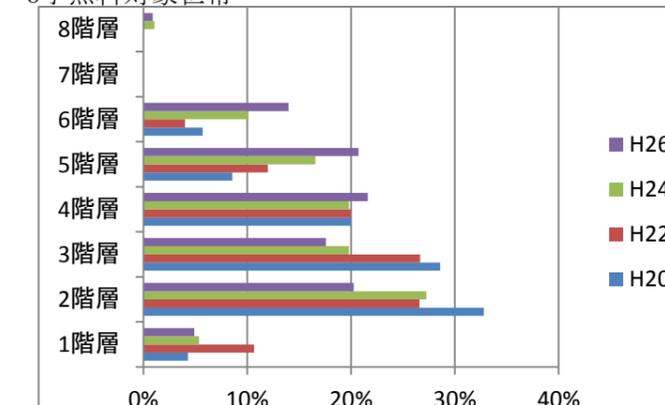
⑤ 階層別入所世帯状況

階層別入所児童世帯の状況を見ると、全体では、1～3階層が減り、収入の多い5階層が増えている。これを3子無料対象世帯で見ると、公務員・教員・建設業・医療職など比較的高収入の世帯が伸びているため、1～3の低階層が減り、5～6階層が増えるという結果となった。

全入所児童世帯



3子無料対象世帯



【検証結果】

「多子世帯の負担軽減」という点では一定の効果があり、子育て支援の充実という評価も高かったが、収入の多い職種についている世帯が増えたことと、対象児童を18歳まで拡大したことにより、保護者の年齢が高くなったと予想されることにより高階層の対象者が増えるという結果となった。

また、人口、子どもがいる世帯の状況等からみて、少子化対策、人口減少対策には、必ずしも繋がるものではなかったと考えられる。

③ 第3子無料化を拡大した3年間の女性の出産行動

平成26年度の第1子出産時の平均年齢は、28.08歳。子どもが1人(29.54歳)の場合と3人以上(25.32歳)の場合とでは4.22歳の差がある。第1子出産時の年齢は子どもの人数に関わらず上昇傾向、第1子と末子の平均年齢差もわずかながら上昇傾向にある。3子との平均差は6.5歳、末子が保育所に入所している場合の第1子は、おおむね中学生以下と予想される。

○出産年齢(第1子出産時年齢)

	H23	H26	増減
全体の平均	27.90	28.08	↑ 0.18
子ども1人	29.28	29.54	↑ 0.26
子ども2人	27.13	27.31	↑ 0.18
子ども3人以上	25.21	25.32	↑ 0.11
全国平均	30.10		

○第1子と末子の平均年齢差

	H23	H26	増減
1子	—	—	
2子	3.34	3.38	↑ 0.04
3子	6.29	6.50	↑ 0.21
4子	8.54	8.26	↓ -0.28
5子	10.00	10.41	↑ 0.41